

市町村指定文化財取材票 《表》

| | | | | | |
|-------|--------------------------|----|-----|------------|----|
| 取材日 | 2024年 | 6月 | 16日 | (記入者) 本井良明 | |
| 取材参加者 | 井本 | 西田 | 宮本 | 本井 | 山口 |
| | 渡辺 | | | | |
| 取材対象先 | 奈良市：八幡神社の本殿及び棟札 八幡神社の能舞台 | | | | |

| | | | | | |
|-----------------|---|--|---------|--|--|
| 所在地 | 奈良市月ヶ瀬石打2370 | | | | |
| 所有者(取材 対応者)名 | 八幡神社 氏子総代：***様 (個人情報 報守秘) | | 連絡先 *** | | |
| | | | PCアドレス | | |
| 取材申込 | 申込先・行政名など：***様 | | | | |
| 市町村 指定文化財 | 彫刻 | 名称(指定年月日) | | | |
| | 建築物 2棟 | 八幡神社本殿及び棟札 1982(昭和57)年2月1日・旧月ヶ瀬村指定、 八幡神社能舞台 2017(平成29)年3月14日・奈良市指定(1982(昭和57)年2月1日 旧月ヶ瀬村指定) | | | |
| 文化財指定理由 | 本殿には桃山風の装飾意匠が見られるが、近世風の退化があり江戸中期の再建。当地方としては三間社流れ造りの本格的な社殿として注目され、1298(永仁6)年造営以来の棟札19枚の存在も貴重である。 能舞台の梁から1761(宝暦11)年の墨書が見つかり、奈良市東部地域に分布する茅葺の能舞台のうち、建立年代が明確で、かつ現存最古の遺構と考えられ、高い価値が認められる。 | | | | |

文化財の状況

| | | |
|--------------------------------|---|--|
| 防火対策 | 設備・対策・点検・通知方法など | 記入者の感想 |
| | 消火器あり。有事の際は、火災報知器から関係者の携帯に連絡がいくシステムを導入。尾山に消防分署があり、そこから消防車等が駆けつける。能舞台の天井には火災感知器が設置されている。 | 能舞台は市指定になったこともあり、本堂・能舞台とも防火対策はしっかり出来ているように思った。 |
| 獣害対策 | 被害の有無、対策など | 記入者の感想 |
| | 猪等が出没するが建物に被害はない。以前屋根裏にむさびが入り込んだことがあるが、ネットで対策して今は被害はない。 | 特に大きな被害はないように思った。 |
| 保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策 | 八幡神社には常駐の宮司はおらず、神事や例祭時には尾山の神社から宮司が来る。地区の世帯数は120戸ほど。氏子総代は10年間勤める。総代は5人おり、1か月交代で毎日八幡神社に来て、庭の掃除や清掃等を行い本殿に向かって祝詞をあげている。また、南側の八王子神社に向かっても祝詞を上げている。造営は、2007(平成19)年に行われ、次回造営は3年後の予定(前回の造営は境内の長堂を修理。前々回の造営は本堂の化粧直し)。次回造営は、総代が中心となって進めることとしているが、資金は氏子の寄付で賄っており不安はある。秋の例祭では、伝統芸能を絶やさないよう能舞台で子供たちの和太鼓などの発表会を行っている。また、楽人なども参加して稚児の舞も披露される。昔は稚児は4人いたが最近では1人の時もあり、子供の数が減ってきていることが心配である。 | |

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

社務所には、1月から12月までの18の行事が掲示されており、これら行事を総代が中心となり自治会と協議しながら地区一体となって実施している。また、今後の保存継承について、***総代は「八幡神社は、氏神として地区の人々のやすらぎの場なので、今後もそういう環境を守っていきたい。そのためには、それを維持していくための経済的基盤がほしい。地区の人々は、石打の寺・神社を宗教に関係なく地元の寺、氏神であるという意識を持っているので、それを大事にしたい」との言葉もあって、地区の住民の方々は、八幡神社を氏神として崇め守っていくという意識を持っていることを強く感じた。

市町村指定文化財取材票《裏》①

| | | | | | |
|-------|--------------------------|----|-----|------------|----|
| 取材日 | 2024年 | 6月 | 16日 | (記入者) 本井良明 | |
| 取材参加者 | 井本 渡辺 | 西田 | 宮本 | 本井 | 山口 |
| 取材対象先 | 奈良市：八幡神社の本殿及び棟札 八幡神社の能舞台 | | | | |

＜写真撮影許可済 月ヶ瀬村石打史からの転載許可済＞

文化財指定名 八幡神社本殿及び棟札 (旧月ヶ瀬村指定文化財)

| 本殿 (出典：月ヶ瀬村石打史) | 本殿 (近景) |
|--|--|
|  |  |
| <p>拝殿の中から本殿を撮影</p> | <p>棟札 (出典：月ヶ瀬村石打史)</p> |
|  |  <div data-bbox="831 976 951 1122" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>八幡宮奉移 文永三年</p> </div> <div data-bbox="1174 947 1299 1133" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>当社八幡宮 造宮永仁六 年</p> </div> |
| 文化財の由緒などを記入 | 所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入 |
| <p>本神社は、1266 (文永3) 年に大和国大安寺村石清水八幡神社より当地の郷士稲垣氏の勧請となり、その宮守が東氏であったといわれる。本殿は三間社の流れ造 (桁行387cm、軒高288cm、梁間144cm) で、向拝三間、浜縁付で各部に極彩色が施され、屋根は桧皮葺である。一番古い1361 (正平6) 年の修理時の棟札に「八幡宮奉移文永三年 (1266年) . . .」「当社八幡宮造宮永仁六年 (1298年) . . .」と記されているが、現在の社殿は様式からみてもそれほど古くはなく、江戸中期の棟札から1781 (安永10) 年の再建とみられる。 (参照：月ヶ瀬村史、月ヶ瀬村石打史)</p> | <p>本神社の祭神は、品陀別命 (ほんだわけのみこと・応神天皇)、神功皇后、手力雄命 (たちからをのみこと)。石打地区には本神社のほかに、弘仁 (810~824) の頃に近江から勧請された八王子神社があり、この八王子神社と弘和年間 (1381~84) に村の氏神となった本神社が、明治年代までは、尾山・長引・石打の3地区の氏神として祀られてきた。明治維新後、八幡神社は石打地区のみの氏神となったが、今でも八王子神社の祭礼には八幡神社の氏子総代が参加している。なお、尾山地区には、八王子神社から分祀された八王神社がある。 (参照：月ヶ瀬村史、月ヶ瀬村石打史)</p> |

市町村指定文化財取材票<裏>②

| | | | | | |
|-------|--------------------------|----|-----|------------|----|
| 取材日 | 2024年 | 6月 | 16日 | (記入者) 本井良明 | |
| 取材参加者 | 井本 渡辺 | 西田 | 宮本 | 本井 | 山口 |
| 取材対象先 | 奈良市：八幡神社の本殿及び棟札 八幡神社の能舞台 | | | | |

<写真撮影許可済>

文化財指定名 八幡神社能舞台 (奈良市指定文化財)

| | | |
|-----------|----------|----------|
| 能舞台 (斜め後) | 能舞台 (正面) | 能舞台 (側面) |
|-----------|----------|----------|



能舞台 (梁、柱)

能舞台 (天井)



文化財の由緒などを記入

八幡神社境内にあり、十二尺(360cm)四方の入母屋造、茅葺で簡素な建物である。八角面取りの柱で軒の手法など古式である。舞堂ともいう。1986(昭和61)年に茅葺の屋根の葺き替えを行った後、1998(平成10)年9月の台風により、この能舞台が倒壊したが、その修復の際に能舞台の棟木から「宝暦十一巳年(1761年)十二月二十日大工石打村長九郎」の文字が発見された。歴史的にみて、この年に建設されたものとは考えられず、再建されたものとみられる。(参照：月ヶ瀬村石打史)

石打地区の能楽について

能楽は南北朝から室町にかけて隆盛を極め、奈良東山中にも能舞台が残っているが、石打でも古くから能楽が行われていた。東家文書(宮文書)では、1596(文禄5)年10月18・19日に能代として謝礼を渡したことが、また田北家文書では、1833(天保4)年に石打村の村人や子供たちが能楽を演じたことが記されている。(参照：月ヶ瀬村史、月ヶ瀬村石打史)